

WG - C（谷埋め盛土防災を考える） 第1回個別ワーキング

議 事 次 第

開催日時：2006年4月28日（金）16:00-17:30

場所：有限会社太田ジオリサーチ大阪営業所（兼当NPOの大阪事務所）

議題：谷埋め盛土の地震時対策の普及・広報の具体的方法について

配付資料

- 1．谷埋め盛土の地震時滑動の技術的資料
- 2．NHKニュース映像

検討議題

- 1．広報・普及の視点
 - ・住民サイドからの視点
 - ライフプランニングからの視点
 - ・技術者サイドからの視点
 - 防災産業化としての視点
- 2．広報媒体
 - ・紙媒体のパンフレット
 - ・動画や映像
 - 上記の電子データ化
- 3．作業分担・スケジュール

WG - C (谷埋め盛土防災を考える) 第1回個別ワーキング 議事録

開催日時：2006年4月28日(金) 16:00-17:30

場所：有限会社太田ジオリサーチ大阪営業所(兼当NPOの大阪事務所)

議題：谷埋め盛土の地震時対策の普及・広報の具体的方法について

出席者：鹿田(技術士事務所)・石川(中央開発)・湯原(アテック吉村)・太田(太田ジオ)・
林(太田ジオ) オブザーバー：美馬(太田ジオ)

欠席者：飯沼(建設技術研究所)・宮本(日本海工)・國眼(太田ジオ)

配付資料

1. 谷埋め盛土の地震時滑動の技術的資料
2. NHKニュース映像

討議内容

1. 谷埋め盛土対策の現在の状況報告(太田)

- ・3月末に宅地造成等規制法等の一部を改正する法律案が成立し、6ヶ月以内に施行される
- ・谷埋め盛土の安定問題は、阪神大震災の実例を用いて検証されている。従来の二次元法での正答率は48%(二値問題なのでサイコロを投げて50%あって良いので、これは自然の再現が全くできていないということ)、谷のサイドの摩擦を考慮すると正答率90%超となるので、実際の現象は後者の原理が真実により近い。
- ・ただし、実際に運用されるものは、技術審査をする人が、そういった地質現象の知識がないこともあり得るので、技術基準でどうするかは国が現在検討中のはず。
- ・対策は、1haあたり8000万円と公表されている。40戸(250㎡/戸)あるとして1戸あたり200万円、半額が補助されると100万円。地震対策に個人が投資しようとする気持ちが100万円を境に急変するらしいので、これを実現できる対策が必要となる。
- ・当NPOは、この事業の種をまいた一員でもあるので、今後対策事業普及のために関わっていきたい。

2. 昨年10月20日放映のNHKニュース10と、同年12月放映のTBS番組視聴後ディスカッション

- ・谷埋め盛土の地震時滑動現象や対策方法は、技術的課題としてはそれほど難しいものではない。むしろ個人が地震という不確定な現象に対して投資をするという気持ちになるかどうかということが鍵である。
- ・NHKニュースは、地盤の知識のほとんど無い方々が「大変よくわかった」と評判がよかったものである。技術者の作成する資料はどうしても難解になりがちなので、NHKの担当記者と交渉してこの映像をNPO活動の中で利用させてもらうように働きかけてみてはどうか。

3. 広報・普及の視点

- ・住民に選択肢ができるということが重要(対策するor地震保険に入る等々)

- ・被災した際に、人生設計が大きく狂うということを理解してもらうための、シミュレーションが必要。生命保険や損害保険と同じように考えられるようにする。生命保険は、一人当たり2万円/月くらいは払っている。一家族当たり10万円/月払っているところもあると思う。100万円の対策費は、一家族当たりで見れば保険料1年分くらいであることを理解できるようにした方がよい。←住民側の動機付け
- ・住民側に動機ができたとしても、民間企業側がビジネスとして魅力を感じなければ、これも普及の妨げとなる。これに対してどういう方法があるか？←技術者サイドの動機付け
- ・民間開発の場合、すでにデベロッパーが消滅している場合も多々ありそう。公的機関が開発した造成地にたいして、まず働きかけをすべきではないか。
- ・土砂災害新法などでも、住民と行政は規制をかけられる側とかける側になるので、対立が起きやすく、中立な第三者的コーディネーターの必要性が言われている。谷埋め盛土対策でもまったく同様のことが起きる可能性が高い。NPOが住民と行政の橋渡しをするコーディネーターとしての役割を持つことも視野に入れたらよい。

4．広報媒体

- ・紙ベースのものは、最大でもA4版8ページくらい。もっと短くても良い
- ・動画や映像は、NHKニュースの活用を検討してみる
- ・意識の高い住民用に、自分で自分の住んでいるところの危険度を簡易に判定する方法を提供する。釜井先生の『斜面防災都市』に書かれている被災確率の算出方法を提供する（すでに作成済み）。そのことによって住民が自分の問題として強く意識するようになればよい。
- ・資料の中には、釜井先生のわかりやすい論文を入れたらよい。それが素人にわかりにくければ、わかりやすいものを書き下ろしていただくようお願いしてみる。

5．作業分担、スケジュール

- ・たたき台を、林・太田らが作成し、WGメンバーで揉む。
- ・時期としては、できたときに逐次公開が良いが、できれば6月には最初のものを公表したい。

6．その他

- ・伊藤さん（会員）からの問題提起「NPOで何をするのか」ということに対してのひとつの答えとなるのではないか。
- ・河田先生のおっしゃるように「何でもできます、でなはく何かひとつこれができる」というものの第一号として進めたい。
- ・本日の出席者および、参加希望だが所用で出席できなかった方々は、WG-Cのメンバーとして考えて、今後ディスカッションをしていく。

以上

（2006.4.29 作成、文責：太田英将）